

電波伝播実験

JJ1SXA 池

今年の伝播実験は如何だったでしょうか？私は久しぶりに、比較的近距離の場所への移動だったので、多くの局の信号を聞くことができました。

いわき市は、7エリアとは言え、1エリア茨城の直ぐ隣です、然し、やはり7エリアです、走行距離は自宅から往復500kmを超えていました。

例年は前日の土曜日に、旅館に宿泊というパターンでしたが、今年はスタート時間が7時になったので、無理をして、当日早朝に現地に行き、実験が終わった後、ゆっくり温泉で骨休めという予定で、午前3時15分頃に自宅立川を出発、4時間あれば現地いわき市の「湯の岳」に到着するだろうと思っていましたが、現着して時計を見たら、何と6時15分、3時間で到着です。(終了時間が早かったのも、結局日帰り)

「湯の岳」は、標高は大してありませんが、独立峯でロケーションは良いようです、頂上付近の駐車場は広く、早朝という事もあってか、他には車が見あたりません、一番良い場所は何処だと動き回るのに絶好の状態(もともと、この日は後でも車は数台しか来ませんでした)、車が一杯だとこんな事はできませんね。

そもそも240グループの電波伝播実験は、240グループがスタートして数年後、5/8λ モービルホイップをつけた局が増え、また2エリアに「東海地方 50.240MHzSSB モービルグループ」が、3エリアには「関西地方 50.240MHzSSB モービルグループ」が結成されて、そちらにも5/8λ モービルホイップが普及していった時期とも重なり、モービルホイップで、どのくらいの距離まで交信可能か、是非実験しましょうということでスタートしたのですが、各局の移動範囲が余りにも広いので、連絡用のサブアンテナとしてビームアンテナを携行する局も多かったのです。

その後、一寸したきっかけで、2エリア、3エリアのアクティビティが急激に下がり、ほとんど1エリアの局のみの移動実験となったのです。

他エリア、遠方へは少数の局が移動するのみとなったのと同時に、5/8λ モービルホイップの局も極端に少なくなり、本来はモービルホイップでの実験だった筈が、逆にモービルホイップよりも大型のビームアンテナで実験するのが当たり前といった考えの局の方が多くなり(特に近年)、当初の目的から大分外れているような気がして憂慮していましたが、今年は、モービルホイップのみの運用ということで、本来の240グループの電波伝播実験に戻り、個人的には大変喜んでます。

色々の考えがあろうかと思いますが、何事にも、改善・改良は必要な事はいまでもありません、然し、改善・改良には現状だけでの判断だけで無く、過去の歴史も踏まえて将来の展望を考えるとということも大事なことでないでしょうか？「温故知新」の精神を大事にしましょう！！ともあれ、又一つ無事にイベント終了で、ほっとしています。